

# 作業環境測定を行うべき場所と測定の種類等

作業環境測定を行うべき作業場			測定				
作業場の種類 (労働安全衛生法施行令第21条)			関係規則	測定の種類	測定回数	記録の 保存年数	
①*	土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉じんを著しく発散する屋内作業場		粉じん則26条	空気中の粉じんの濃度及び粉じん中の遊離けい酸含有率	6月以内ごとに1回	7	
2.	暑熱、寒冷又は多湿の屋内作業場		安衛則607条	気温、湿度及びふく射熱	半月以内ごとに1回	3	
3.	著しい騒音を発する屋内作業場		安衛則590、591条	等価騒音レベル	6月以内ごとに1回 (注1)	3	
4.	坑内の 作業場	イ	炭酸ガスが停滞する作業場	安衛則592条	炭酸ガスの濃度	1月以内ごとに1回	3
		ロ	28℃を超える、又は超えるおそれのある作業場	安衛則612条	気温	半月以内ごとに1回	3
		ハ	通気設備のある作業場	安衛則603条	通気量	半月以内ごとに1回	3
5.	中央管理方式の空気調和設備を設けている建築物の室で、事務所の用に供されるもの		事務所則7条	一酸化炭素及び二酸化炭素の含有率、室温及び外気温、相対湿度	2月以内ごとに1回 (注2)	3	
	室の建築、大規模の修繕または大規模の模様替えを行ったとき		事務所則7条の2	ホルムアルデヒドの量	室工事が完了した日以降の6月～9月に1回	—	
6.	放射線業務を行う作業場	イ	放射線業務を行う管理区域	電離則54条	外部放射線による線量当量率	1月以内ごとに1回 (注3)	5
		ロ	放射性物質取扱作業室				
		ハ	坑内の核燃料物質の採掘の業務を行う作業場	電離則55条	空気中の放射性物質の濃度	1月以内ごとに1回	5
⑦*	特定化学物質(第1類物質又は第2類物質)を製造し、又は取り扱う屋内作業場等		特化則36条	第1類物質又は第2類物質の空気中の濃度	6月以内ごとに1回	3 特定の物質については30年間	
⑧*	石綿等を取扱い、若しくは試験研究のため製造する屋内作業場		石綿則36条	石綿の空気中における濃度	6月以内ごとに1回	40	
⑨*	一定の鉛業務を行う屋内作業場		鉛則52条	空気中の鉛の濃度	1年以内ごとに1回	3	
10.	酸素欠乏危険場所において作業を行う場合の当該作業場		酸欠則3条	第1種酸素欠乏危険作業に係る作業場にあつては、空気中の酸素の濃度	作業開始前等ごと	3	
				第2種酸素欠乏危険作業に係る作業場にあつては、空気中の酸素及び硫化水素の濃度	作業開始前等ごと	3	
⑪*	有機溶剤(第1種有機溶剤又は第2種有機溶剤)を製造し、又は取り扱う屋内作業場		有機則28条	当該有機溶剤の濃度	6月以内ごとに1回	3	

(注1) ただし、施設、設備、作業工程又は作業方法を変更した場合は、その都度、測定すること。

(注2) 測定を行おうとする日の属する年の前年1年間において、室の気温が17度以上28度以下及び相対湿度が40%以上70%以下である状況が継続し、かつ、測定を行おうとする日の属する1年間において、引き続き当該状況が継続しないおそれがない場合には、室温及び外気温並びに相対湿度については、3月から5月までの期間又は9月から11月までの期間、6月から8月までの期間及び12月から2月までの期間ごとに1回の測定とすることができる。

(注3) 放射線装置を固定して使用する場合において使用の方法及び遮蔽物の位置が一定しているとき、又は3.7ギガベクレル以下の放射性物質を装備している機器を使用するときは、6月以内ごとに1回。

\* 印は、作業環境評価基準の適用される作業場を示す。

印は、作業環境測定士または作業環境測定機関が測定を実施しなければ  
ならない6つの指定作業場です ※放射線物質については扱っておりません

環境調査・分析のバイオニア  
株式会社 **オオスミ**

作業環境測定機関登録番号： 14-18

【本社】〒246-0008 横浜市瀬谷区五貫目町20-17  
TEL：045-924-1050(代)

分析：土壌・水質・飲料水・産業廃棄物・悪臭・残土・農薬  
測定：作業環境・アスベスト・室内空気環境・VOC・ばい煙  
調査・計画：土壌・環境アセス・騒音・振動  
コンサル：土壌汚染対策コンサルティング・ISO14001・設備改善  
商品・販売：化学工業薬品・水処理薬品

ホームページ <http://www.o-smi.co.jp>

(東京支店) 〒101-0064 千代田区猿樂町2-1-14  
TEL：03-3219-5021(代)